

会 議 録

会議の名称	第4回小金井市産業振興プラン策定委員会
事務局	市民部経済課産業振興係
開催日時	平成27年11月2日(月) 午後3時～午後5時
開催場所	前原暫定集会施設 A会議室
出席者 (10名)	委員長 福田 委員 副委員長 正木 委員 阿久津 委員 日野 委員 益田 委員 今井 委員 石黒 委員 鴨下 敏明 委員 鴨下 洋 委員 高杉 委員
欠席者	長島委員、藤本委員
傍聴の可否	○可 ・ 一部不可 ・ 不可
傍聴者数	0人
傍聴不可等の理由等	なし
会議次第	1. 委員長挨拶 2. 資料確認 3. 議事 (1) 将来像の実現に向けた方向性の確認 (2) 推進目標と施策について 4. その他
会議結果	決定事項なし。

<p>発言内容・ 発言者名 (主な発言 要旨等)</p>	<p>発言内容</p> <p>議事 1. 将来像の実現に向けた方向性の確認について</p> <p>◎事務局 前回ご提示したSWOT分析を一部取りまとめたて提示させていただいた。過去の議論から、委員の皆様小金井市で地域を代表するような商業・工業集積を凶ることは困難であるとの共通認識があると考えている。従って黄金井ビジネスの定義を「生活都市としてのまちを豊かにするビジネス」としたい。</p> <p>ここでは、小金井市の特性が将来像の実現に向けた方向性と合致しているかを確認していただきたい。</p> <p>◎日野委員 方向性を3つに集約しているが、将来像との繋がりがわかるような表現を検討するべきではないか。</p> <p>◎鴨下(洋)委員 小金井市は地盤が強固であるので、データセンターなどの誘致に向けて、強みとできるのではないか。</p> <p>◎事務局 企業誘致に関するメニューを施策に設けるのであれば、いただいた内容を反映させたい。</p> <p>◎高杉委員 資料2では個別の産業についての記述(詳述)が薄い印象を受ける。</p> <p>◎事務局 商業や鉱業誘致よりも、生活都市としてのまちを豊かにする「黄金井ビジネス」を進めていくという意図がある。</p> <p>◎高杉委員 市内で頑張っている既存の企業や産業を軽視しているように見える。</p> <p>◎事務局 資料3の方向性1の中で「既存産業の付加価値を高める」と記述している。例えば市内で営業している工務店がリフォームに特化してサービスを展開するといったことが想定される。</p> <p>◎高杉委員 今説明いただいた趣旨をプランに落とし込んでいけばよいのではないか。</p> <p>◎石黒委員 生活に必要な衣食住にまつわる産業を網羅できる表現を心がけていただきたい。</p> <p>◎事務局 今いただいたご指摘も踏まえて、次回委員会ではプラン案をお示しし、その際に具体的な表現を確認いただければと考えている。</p>
---	---

◎**鴨下(敏)委員** 「高架下」という表現はあるが、土地利用はJRに限定されるので、高架下の活用を通じて来街者をいかに商店街へ回遊させるかが重要である。武蔵小金井の第二地区の開発について、工業系の小さなオフィス入居を進めるなど、工業面での記述を充実させて欲しい。

◎**石黒委員** 空き店舗についての記述はあるが、空き家も取り上げるべきなのではないか。

◎**事務局** 空間資源を活用することが趣旨なので、空き家についても検討すると考えられる。

◎**日野委員** コト消費の導入としてはこれでよいのではないか。

◎**正木副委員長** 用語のイメージは議論を通じて精錬すればよいのではないかと考えている。

議事2. 現行プラン改定の方向性について

◎**事務局** 施策をイメージしやすいよう具体的な表記をしたが、あくまで例示であり詳細な事業まではプランに位置付けない。

また、現行プランに比べ黄金井の里を廃止し中間支援組織を設立すること、都補助金の廃止により直接事業に関わる人員体制も予算規模も縮小する。事業を早期実施することにより人的負担の分散や適切な補助メニューの活用により事業実施を行うが、前回以上に施策が増えているため全てを網羅できるかどうかはわからない。実施方法も、個別の要素をくまなく実施するのではなく、いくつかの要素を組み合わせるなどし、産業振興プランの実現に向けた工夫を行いたい。

◎**日野委員** 高架下で行われているイベントや事業は固定客の獲得につながっていると思われるので、小金井独自のビジネスとして捉えられるのではないかと考える。そうした内容を施策に盛り込んでみてはどうか。

◎**今井委員** 回遊性が確保されていないため、生鮮三品を中心に商店街の売上が落ちている。高架下で行われているはけの朝市も事業主体が不明確であるなど、産業振興プランの盛り込むべきか疑問が残る。

◎**鴨下（敏）委員** 高架下の店舗は一般的に公募されているわけではない。あくまでJRの考え方に基づいて店舗が設置されている。市民や市の事業者が参画できるようなスペースであればよいのではないかと。

◎**益田委員** 武蔵小金井駅の高架下については、新しく出来るスペースには商店街等が使用できる場所を設ける予定であると聞いているが、先行きは不透明である。

◎**日野委員** 高架下は既存ストックとして捉えず、別立てにすればよいのではないかと。

◎**正木副委員長** 小金井の生活や文化を維持するための方策として、例えば回遊性の向上に向けたアイデア作りをすることが重要である。付加価値の向上として、教育は外部からの関心が高い領域であり、市内の教育機関に視察に来た人たちを滞在させる仕組みもよいのではないかと。姉妹都市とのコラボレーションもよいのではないかと。

◎**今井委員** 例えば学芸大学の学生の大半は国分寺駅を利用しているが、JRと連携してレンタサイクルを展開することにより、回遊性を高めることも考えられるのではないかと。

◎**正木副委員長** 毎年1,000人の学生が出入りするとして、1割でも小金井市のファンになってもらえるのであれば、大きなチャンスである。

◎**事務局** 市と学生との相互理解を深める事業展開をすることもよいのではないかと。

◎**鴨下（敏）委員** 市内でタクシーの回転率が低いので、学生向けのサービスを展開するというのも面白いのではないかと。

◎**福田委員長** 何のため、誰のためのプランなのかという視点で取捨選択をする必要がある。学校も大学だけに限定せず、幅広い年代の方に参加いただくという視点を持つことも重要ではないかと。

◎**阿久津委員** ②の方向性で「留学生・外国人」を巻き込むという視点を持つべきではないかと。③について、プロボノの推進が叫ばれているので、小金井市にいる専門家（コンサルタント、医師、弁護士等）が休日に市内企業へアドバイスをしてもらえるようにするというのも考えられるのではないかと。

◎**正木副委員長** 言語教育のみならず、多文化交流という視点から留学生と地元住民の方との触れ合いを確保することは非常に重要であり、大学側としても取り組みを強化している。

◎**鴨下（敏）委員** 農的地域資源もはじめ、江戸東京野菜に特化している印象があるが、そうした方向性でよいのか。

◎**高杉委員** 地産地消が最大のテーマであり、江戸東京野菜自体の位置づけはまだまだ低い。昔ながらの野菜づくりであるため、コスト抑制が大きな課題である。一方で、野菜に関して小金井市の特産と呼べるものはほとんどないことも弱みである。

◎**阿久津委員** 新しい産品を育成してはいないのか。

◎**高杉委員** 挑戦はしているが、消費マインドが継続しないため、事業ベースに乗せることは難しい。

◎**阿久津委員** 大阪府豊能町ではそれまでニッチな産品であったビール原料のホップの栽培が成功し、地域の活性化に一役買ったと聞いている。

◎**高杉委員** 採算が取れるまで耐えられるかが問題であり、消費者による買い支えがまず必要である。

◎**正木副委員長** 行政はもちろん、企業や教育機関とコラボレーションして開発することが大事である。

◎**日野委員** 大学生が商店街に入り込んで、経営のノウハウを学びつつ、イベントを仕掛けることも面白いのではないか。

◎**正木副委員長** 学校で勉強する以外の時間でアルバイトをしつつ地域貢献が出来るのであればやりたいという意欲を持つ学生は非常に多い。こうした学生とマッチングするための情報発信を大学発で行うことが重要であると考えている。

◎**日野委員** 大型店舗では味わえないよさが商店街にはある。そうしたよさを知らずに学生が卒業してしまうのはもったいない。

◎**益田委員** 私の商店街では商売を始めたくてもその床がなくてチャレンジできない。例えば③-1の中で若手起業家の支援を充実させてはどうか。

◎**鴨下（敏）委員** かつては信用金庫を巻き込んで起業コンテストを行うことで、事業資金を確保することをしていた。商品開発や家賃に

	対して行政による補助も必要ではないか。
提出資料	資料1 策定委員会の論点 資料2 クロス分析 資料3 小金井市産業振興プランの推進目標と施策体系の検討
その他	第5回策定委員会は12月21日(月)15時より開催する。